

◇ 2 「学校のスポーツふれあい広場プロジェクト」

1 目的

子どもの運動機会を確保するため、身近な小学校の運動場や体育館において、親子・友人がボール投げやバドミントンなど、体を動かす遊びや運動に取り組んでいる状態を目指し、スポーツ用品・設備の整備や教室等を開催する。

2 進め方（方向性）

- (1) 見守りの配置や学校にある道具を使えるようにするなど、遊べる環境を整え、子どもや家族に放課後に小学校で遊べることを伝えていく。
- (2) 指導者の派遣やスポーツ用具の配置などを行い、エリアに分かれて、スポーツ教室や体を動かす遊びが、行われていくようにしていく。

3 制度設計に向けて

- (1) 見守る人について
- (2) 実施方法について

見守り可能な団体等及び小学校と調整をし、モデル的に実施する。その様子を検証しながら、放課後児童クラブや子ども教室、中学校部活動の地域移行、スポーツ指導者バンクとの連携、調整を行い、他の地域（小学校）へ広げていく。

<イメージ及び検討内容>

- 見守りの配置や学校にある道具を使えるようにするなど遊べる環境を整え、子どもや家族に、放課後に小学校で遊べることを伝える



<そのために検討すること>

- ・ 見守る人の配置：例：地域ささえあい団体（希望地域団体とモデル的に実施）、謝礼：要検討
- ・ 利用できる人：児童、高齢者、保護者の付添がある幼児、児童・高齢者の付添い者
- ・ 開放日、開放時間：平日のうち1日（月1）、放課後から午後6時
- ・ 保険：公園と同様の扱いとし、事故・損害等の責任は、施設・設備等管理上の欠陥がある場合を除き、原則として利用者が行う。



たくさん人が集まるようになってきたら

- 指導者の派遣やスポーツ用具の配置などを行い、エリアに分かれて、スポーツ教室や体を動かす遊びが、行われるようにしていく。



<そのために検討すること>

- ・ スポーツ教室は、誰が募集をかけ、開催するのか
- ・ ケガ等に対する保険はどうするのか
- ・ 開放日数と時間はどうするのか
- ・ スポーツ用具はどこにしまい鍵の管理などはどうするか